

令和 6 年 6 月 19 日現在

機関番号：32604

研究種目：若手研究

研究期間：2019～2023

課題番号：19K13332

研究課題名（和文）近世日朝通交システムの「終焉」 対馬藩朝鮮通詞の視点から

研究課題名（英文）Late 19th Century Korea and Japan: From Interpreters Perspective

研究代表者

酒井 雅代（SAKAI, Masayo）

大妻女子大学・比較文化学部・講師

研究者番号：30827655

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,200,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は、1850～80年における幕藩制的（近世的）外交システムから中央集権的（近代的）外交システムへの移行を、朝鮮王朝との外交関係の変容に焦点を絞って分析し、日朝関係史における近世から近代への史的展開を再構築しようとするものである。

とりわけ折衝の最前線を支えた通訳官（朝鮮通詞・倭学訳官）に着目し、近世から近代にかけての日朝間の外交折衝事案における彼らの諸活動から、日朝関係の変容／継承の様相を明らかにした。その結果、日朝外交が国家間関係としては「転回」するなかで、外交を支えた通訳官の活動の連続性がある程度見えるような成果が得られた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

通訳官が主に担ってきた現実の外交交渉の活動を具体的に追究し、彼らの果たした役割を詳細に再現することによって、マクロでは近世から近代への「転回」ととらえられてきた当該期日朝関係の変容／継承の問題を、よりミクロな視点から再構成できる。これは、近世＝「友好」の時代、近代以降＝「陰悪」「支配」の時代と二項対立的に描かれる従来の日朝関係の見方から脱却するものであり、日本史・朝鮮史研究に視座の転換を促すこととなる。

研究成果の概要（英文）：This study focuses on analyzing the transition from a feudal (early modern) diplomatic system to a centralized (modern) diplomatic system between 1850 and 1880, with a specific emphasis on the transformation of diplomatic relations with the Joseon Dynasty. It aims to reconstruct the historical development from early modern to modern periods in the history of Japan-Korea relations. Particularly, the study highlights interpreters (Joseon interpreters of Tsushima and Japanese interpreters of Joseon) who supported the forefront of negotiations. Through their various activities in diplomatic negotiations between Japan and Joseon from early modern to modern times, it elucidates the aspects of transformation and continuity in Japan-Joseon relations. As a result, it reveals a certain continuity in the activities of interpreters who supported diplomacy amidst the "transformation" of interstate relations between Japan and Korea.

研究分野：日本近世史・日朝関係史

キーワード：日朝関係 対馬 朝鮮 江戸幕府 通訳官 幕末維新 外務省 倭館

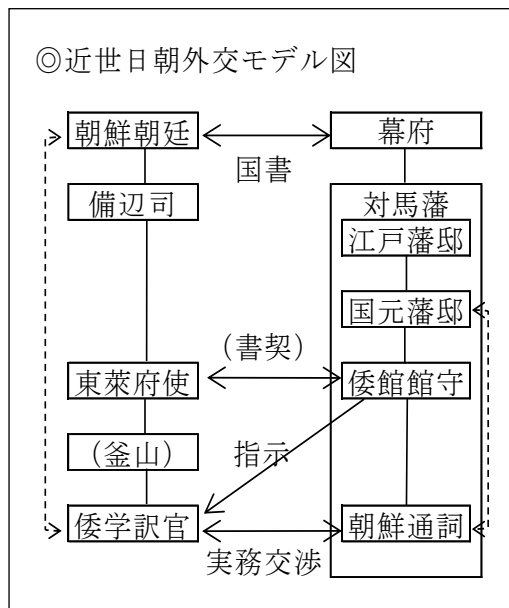
1. 研究開始当初の背景

これまでの研究では、幕末維新时期に近世日朝関係が「転回」し、明治新政府のもとへ外交が「一元化」されたことが説かれてきた。しかし既存の研究は幕末維新时期の国内政治史の分析に偏しており、近世を通じて日朝関係の実務を担い、当該期においても継続してその任にあっていた対馬藩の動向や朝鮮との具体的な交渉内容や変遷への言及が不足している。

近世日朝間の政治折衝における意思決定は重層的な構造を特徴とした。それは右図のように、(日本) [幕府—対馬藩江戸藩邸—国元藩邸—釜山倭館館守] ⇔ [東萊府使—備辺司—朝鮮朝廷] (朝鮮) と表すことができるが、さらに最前線での実務折衝は対馬藩の朝鮮通詞 (朝鮮語通訳官) と朝鮮王朝の倭学訳官 (日本語通訳官) に担われた。

日本・朝鮮での意思決定は、[] 内をそれぞれたどりながら合意が形成される一方で、ある程度のところまでは「倭館館守」と「東萊府使」とのあいだで先行して折衝が進められた。

こうした重層的な意思決定構造は幕末維新时期に放棄された。しかし一方で、通詞を含めた対馬藩の一部の (人びとの) 機能は近代的日朝関係に組みこまれた。近代的日朝関係は、中央政府の「転回」のみで語るのではなく、前述の構造の変化に即して明らかにする必要がある。



2. 研究の目的

本研究は、1850～80年における幕藩制的 (近世的) 外交システムから中央集権的 (近代的) 外交システムへの移行を、朝鮮王朝との外交関係の変容に焦点を絞って分析し、日朝関係史における近世から近代への史的展開を再構築しようとするものである。

本研究では、近世を通じて日朝関係が対馬藩に委ねられていた事実をふまえながら、近世から近代にかけての日朝間の外交折衝事案を掘り起こす。とりわけ折衝の最前線を支えた通訳官 (朝鮮通詞・倭学訳官) に着目し、近代にかけての彼らの諸活動から、近世から近代への日朝関係の変容/継承の様相を明らかにする。

3. 研究の方法

既存の研究では、近世を通じて、日本と朝鮮王朝は唯一の外交関係にあり、両国関係は平和で安定的であったが、幕末維新の変動を経て近代的に「転回」し、1880年代以後、朝鮮内政への日本政府の過干渉や日清・日露戦争を経て保護国化と植民地化へ移行する、と見なされてきた。

それに対し、本研究では、幕末維新时期における日朝関係の変容/継承の様相を、近世から近代初頭にいたるまで一貫して日朝交渉の最前線としてあり続けた釜山倭館という場に注目しながら、現実の外交交渉をもとに解析する。とくに折衝の最前線で日朝双方の意思疎通を担った通訳官の活動を、幕末～明治初期の対馬藩政史料を中心とする関連史料のなかに探ることとする。

4. 研究成果

本研究課題は、近世を通じて日朝関係が対馬藩に委ねられていた事実をふまえながら、とりわけ折衝の最前線を支えた通訳官（朝鮮通詞・倭学訳官）に着目し、近世近代移行期における日朝外交システムの変容／継承のあり方を具体的に追究しようとするものである。

外交システムの変容／継承について、韓国・国史編纂委員会にある対馬藩政史料を主に収集し、日朝交渉の最前線としてあり続けた釜山倭館という場に着目しながら、現実の外交交渉をもとに解析をした。

近世の日朝外交事案や交渉にあたった通訳官については、主に単著『近世日朝関係と対馬藩』（吉川弘文館、2021年2月）や論文「近世韓日関係の断面—通訳官の多様な活動を中心に」（『韓国外交史論集』第1号、韓国国立外交院、2020年12月、原文韓国語）として発表した。

近代への移行期については、19世紀前半に計画されながらも実現しなかった朝鮮の外交使節の招聘交渉を取り上げた論文「朝鮮信使大坂易地聘礼交渉と対馬藩」（『朝鮮通信使研究』（韓国・釜山）第31号、2021年6月）や、近世から近代への連続性／非連続性をとらえようとした朝鮮史研究会大会での大会報告「朝鮮後期倭館における交流と外交—最前線における通訳官の活動から—」（テーマ「高麗・朝鮮時代における国際交流の諸相—伝播・接触・受容—」、2021年10月開催、のち『朝鮮史研究会論文集』第60集、2022年10月に収録）としてまとめた。

それらを総合して、最終年度には、研究書籍の分担執筆2篇（「日朝関係と対馬藩」、『日本近世史を見通す2 伝統と改革の時代』吉川弘文館、2023年12月、および「対外関係—近世日本の「内」と「外」の項のうち「日朝関係」、上野大輔・清水光明・三ツ松誠・吉村雅美編『日本近世史入門 ようこそ研究の世界へ！』勉誠社、2024年3月）を発表し、日朝外交の非連続性のなかで外交を支えた通訳官の活動の連続性がある程度見えるような成果が得られたことと思う。

日本・韓国で論文を発表する前段階では、国際シンポジウムや韓国の学会・大学講座での発表を通じて、国内外への研究成果の発信を積極的におこなった。また、その作業の前提としておこなった在韓日本関係史料の調査から、「韓国所在の近世日本関係史料について」（『歴史評論』834号、2019年10月）を発表するなど、今後の学界の発展に寄与するようつとめた。

本課題による近世近代移行期の研究を進めるなかで、幕閣内部の動向や、蝦夷地や長崎といった他地域における幕府対外政策との関係の重要性を再認識したため、今後これらを新たな課題として検討していきたい。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計7件（うち査読付論文 3件/うち国際共著 1件/うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 酒井雅代	4. 巻 8
2. 論文標題 書評 岩崎奈緒子『近世後期の世界認識と鎖国』	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 訳官使・通信使とその周辺	6. 最初と最後の頁 73-78
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 酒井雅代	4. 巻 60
2. 論文標題 18～19世紀の倭館における交流と外交 最前線の通訳官の活動から	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 朝鮮史研究会論文集	6. 最初と最後の頁 99-120
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 酒井雅代	4. 巻 1
2. 論文標題 貿易/密貿易からみる近世日朝関係	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 韓国・東国大学校文化学院編『モノから読みとく東ユーラシア世界の躍動性』（原文韓国語）	6. 最初と最後の頁 331-354
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 酒井 雅代	4. 巻 31
2. 論文標題 朝鮮信使大坂易地聘礼交渉と対馬藩	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 『朝鮮通信使研究』（韓国・釜山）	6. 最初と最後の頁 49-95
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 酒井雅代	4. 巻 1
2. 論文標題 近世韓日関係の断面 通訳官の多様な活動を中心に	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 『韓国外交史論集』（韓国国立外交院、原文韓国語）	6. 最初と最後の頁 203-226
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 酒井雅代	4. 巻 834
2. 論文標題 韓国所在の近世日本関係史料について：近世日朝関係史料を中心に	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 歴史評論	6. 最初と最後の頁 50-60
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 酒井雅代	4. 巻 27
2. 論文標題 倭館の「現場」からみた朝鮮信使易地聘礼交渉	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 朝鮮通信使研究（韓国・釜山）	6. 最初と最後の頁 59-105
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計9件（うち招待講演 6件 / うち国際学会 6件）

1. 発表者名 酒井雅代
2. 発表標題 1800年前後における近世日本の対外政策
3. 学会等名 シンポジウム「人びとの近世史」・名古屋大学文学部
4. 発表年 2024年

1. 発表者名 酒井雅代
2. 発表標題 天明・寛政期の対馬藩と幕府
3. 学会等名 第18回「訳官使・通信使とその周辺」研究会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 酒井 雅代
2. 発表標題 朝鮮後期倭館における交流と外交 最前線における通訳官の活動から
3. 学会等名 朝鮮史研究会第58回大会 テーマ『高麗・朝鮮時代における国際交流の諸相 伝播・接触・受容 』（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 酒井 雅代
2. 発表標題 貿易／密貿易からみる近世日朝関係
3. 学会等名 韓国・東国大学校文化学院HK+事業団・第1回国際学術大会 テーマ『モノから読みとく東ユーラシア世界の躍動性』（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 酒井 雅代
2. 発表標題 朝鮮時代の釜山倭館からみた東アジア
3. 学会等名 韓国・成均館大学校 国際学術大会「東アジアの記録と表象」（国際学会）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 酒井 雅代
2. 発表標題 近世日朝間の「友好」関係はどのように維持されたのか
3. 学会等名 韓国・ソウル大学校 奎章閣コロキウム（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 酒井 雅代
2. 発表標題 朝鮮通信使易地聘礼交渉と日朝交流
3. 学会等名 韓国・公州大学校 朝鮮通信使国際学術セミナー（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 酒井 雅代
2. 発表標題 釜山倭館でおこなわれた朝鮮後期の日朝交流
3. 学会等名 韓国・釜山大学校 人文学部東アジア知識学学術講座（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 酒井 雅代
2. 発表標題 朝鮮信使易地聘礼をめぐる外交交渉 交渉の「現場」から
3. 学会等名 朝鮮通信使学会 春季学術大会（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計3件

1. 著者名 村和明・吉村雅美編	4. 発行年 2023年
2. 出版社 吉川弘文館	5. 総ページ数 -
3. 書名 日本近世史を見通す2 伝統と改革の時代（分担執筆：酒井雅代「日朝関係と対馬藩」）	

1. 著者名 上野大輔・清水光明・三ツ松誠・吉村雅美編	4. 発行年 2024年
2. 出版社 勉誠社	5. 総ページ数 -
3. 書名 日本近世史入門 ようこそ研究の世界へ！（分担執筆：「対外関係 近世日本の「内」と「外」」の項のうち「日朝関係」）	

1. 著者名 酒井 雅代	4. 発行年 2021年
2. 出版社 吉川弘文館	5. 総ページ数 280
3. 書名 近世日朝関係と対馬藩	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------